



戦国百四十年型

# 無駄な布教など何一つない



# 真明

発行所  
天理教芦津大教会  
〒546-0003  
大阪市東住吉区  
今川8丁目6番32号  
電話 06 (6702) 1980  
FAX 06 (6700) 1854  
Eメール shinmei@ashitsu.or.jp  
印刷所 天理時報社

日々勤め小さいようで大きい。何とも無く  
思えば何でも無い。何でも無いもの大切な  
理に運んでくれる。この理は計り難ない。

明治23年6月23日 おさしづ

戸別訪問、路傍講演、神名流し、リーフレット配布  
といった布教方法は、見知らぬ方への働きかけが中心  
です。たすけを求める人をこちらから積極的に探そう  
とする尊い行いですが、こうした行動ですぐににをい  
がかかることは、ほとんどありません。

しかし、こうした一見無駄にも見える布教は、必ず  
将来への伏せ込みとなつて、思わぬところから芽生え  
をお見せいただきます。それは、私たちが懸命に布教  
する姿をご覧になって、親神様・教祖がお喜びくださ  
っているからです。

私たちがたすけ心を湛<sup>た</sup>えてする布教活動に、何一つ  
として無駄なことはありません。誰も聞いていない路  
傍講演も、一読もされないリーフレットを渡すことも、  
私たちが蒔いたたすけの種は、すべて神様が受け取っ  
てくださっています。誰も見ていなくても、自分の知  
らないところで天に通じているのです。

「コストパフォーマンス」「タイムパフォーマンス」と  
いう言葉が流行し、無駄を省いて効率的なことが高く  
評価される昨今ですが、お道を通るお互いは、外へ向  
けて地道なにをいがけを積み重ね、親神様・教祖にお  
喜びいただく毎日を歩みましょう。

## 正面方加

「やってみせ、言  
つて聞かせてさせ  
てみて、誉めてや  
らねば、人は動か  
じ」。海軍軍人・  
山本五十六の言葉  
である。

本教は教祖お一人から始ま  
った道であり、教祖御自らお  
通りくださったひながたの道  
でもある。教祖を慕い、導か  
れるままに通る切った道の先  
人たちは、御守護のありがた  
さを世界へ伝えた。

そして今、年祭活動三年千  
日のさなか、ふと自問する。  
自身の日々は後進に示せる道  
であるかと。山本五十六の言  
葉は続く。「話し合い、耳を  
傾け承認し、任せてやらねば  
人は育たず。やっている、姿  
を感謝で見守って、信頼せね  
ば、人は実らず」。つまり互  
いに敬意をもって接し、感謝  
と信頼が人をつくる基礎だと  
互い立て合いたすけ合うこ  
の道の教え通りに、年祭活動  
に一層邁進させていただきた  
い。

(瀧)

## 《7月月次祭 挨拶》

## 身近な人へのいをいかけを

大教会長 井筒梅夫

皆様方には日々時間の歩みの上に勇んで励みくださいまして、誠にありがとうございます。また猛暑が続く厳しい暑さの中を、こうして大教会の月次祭にご参拝くださいます、大変ご苦勞様です。

ただ今、学生層育成者講習会ということで、東井申雄のぶお委員から講話を聞かせていただきました。学生を育成する上での大切なポイント、親心をかけて育てること。また、育成者がまず親に繋つながり、しっかりと親に孝行すること。そして学生に対しては目的をしっかりと伝え、それを納得してもらえるように根気よく声をかけていくという、3つのポイントをお話しいただきました。これは本当に大切なことだと思えます。

これから夏休みが始まりますから、学生さんや子供さんたちと接する時間が大いに取れる時期ですので、しっかりと子弟の育成の上に、お互い励ませていただきたいと思えます。

さて、お道では布教活動のことをいをいかけといいます。にをいかけとは、一人ひとりがお道のにをい、教祖の香りを醸し出せるよう日々の成人に努めて、信仰の喜びを周囲の人々に伝えていくことです。陽気ぐらし世界実現への人材育成は、縦の伝道と横の布教の両輪を持って取り組むのですが、これを疎

かにしてしまいますと、いずれ教会は行き詰まってしまいますし、お道も行き詰まって、陽気ぐらしどころではなくなってしまうと思います。

しかし、先ほどの講話にありましたように、天理教には学生会活動やこどもおちばがえりなど、縦の伝道、つまり育成活動は充実したものとありますが、縦の伝道、つまり育成活動の中にも身を置くことで、お道の楽しさや喜びを自然に感じることが出来るのです。道の子弟を将来有用なようばくに育てていくために活用できる材料は、お道の中にはいくつもあると思います。その一方で、横の布教はどうかと考えれば、縦の伝道に比べて弱くなってきたように思えてなりません。もちろん、路傍講演や神名流し、戸別訪問など活発な活動をしている教会や地域もあります。大阪教区など「三年千日毎日布教」の活動を積極的に行っている教会は、やっている者の勇みにもなり、勉強にもなりますし、これを見たお道の人々にこんな頑張っている仲間がいるんだと元気を与えることにもなりますから、有意義な活動に違いありません。

ただ、お道の正味を伝える布教は、一人ひとりの胸から胸へのいをいかけですから、その人自身が腰を上げて、その氣になつてやらなければ、にをいはいはかからない、信仰の喜びは伝わらないと思えます。

にをいかけと申ししても、その形態はさまざまあります。戸別訪問など、会ったこともないような未信仰の方に直接声を掛けることも大切なにをいかけですが、このにをいかけについて「論達第四号」では、

家庭や職場など身近なところから、にをいかけを心掛けよう。



と促してくださいますように、まず身近な人に目を向けていただきたいのです。たとえば家族や親戚であっても、信仰していなければ未信仰の人です。職場や友人、知人、地域の知り合いにも未信仰の人はおられます。この前まで少年会員だったと思っていたのに、もう別席を運べるような年になったとか、結婚をして配偶者ができたなど、そうした人にしっかりと声を掛けることです。

こうした身近な人の向こう側には、大勢の未信仰の人がおられるのです。その一人へのいをいかけをきっかけに、その先でどれほど道が広がり、道が伝わっていくのか分かりません。これはにいをいかけの楽しみの一つです。

先月も申しましたが、私たちにはおちばという頼もしい拠り所があり、声を掛けた人をおちばへ導かせていただく、おちばの理を戴く教会へお連れする。これも大きないをいかけになります。身近な人にもれなく声を掛けてにいをかけていく。これは実に地道な取り組みですが、こうした地に足をつけたよう

ほくとしての歩みをコツコツと進めていくことが大切です。身近な人へのにいをいかけを心に置いて、年祭活動 1 年目の後半を勇んでつとめさせていただきたいと思えます。

皆様方の一層勇んだご丹精をお願いいたします、7 月月次祭の挨拶にいたします。

(要約)

## 立教百八十六年 七月月次祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教芦津大教会長井筒梅夫、慎んで申し上げます。

親神様には子供可愛い一条の親心から、十全の御守護にお願い下され、この道に引き寄せて成人の道をお導き下さり、陽気ぐらしへとお連れ通り下さいます御慈愛の程は、誠に有難い極みでございます。私共は、親神様の親心にお応えできるよう、胸の掃除に努め、心の成人に励み、時句の御用に勇ませて頂いておりますが、その中にも、今日の吉日はおちばより当大教会にお許しを頂きました芽出度き日柄でございますので、只今から役目にあずかる者一同心を揃え、陽気に座りづとめ、てをどりを勤めて、七月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には折柄の暑さも厭わず参らせて頂きました芦津の道の子達が、日頃賜る御恵みに御礼申し上げ、たすけ心を湛えて共につとめに勇み立つ状態を嬉しく御覧下さいます、親神様にもお勇み下さいますよう御願い申し上げます。

今日はおつとめに引き続き、学生層育成者講習会として、本部学生担当委員会・東井申雄委員に神殿講話をお務め頂き、若い世代に如何に信仰を伝えるかについての講話を拝聴いたします。また、今年は四年ぶりに全教待望のこどもおちばがえりが再開され、その後には恒例の学生生徒修養会高校の部が開催されます。私共をはじめ芦津に繋がる教会長、ようぼくは、論達の中で、先人の信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩の積み重ねが、末代へと続く道となる、とお示し頂くように、次の世代に目を向けてその育成に心を尽くし、信仰の喜びと教えの素晴らしさを代々と伝えてまいりたいと存じます。そして今この道を歩む私共が、後に続く世代の手本となって、勇んで信仰実践に励み、次の目標である教祖百四十年祭を目指して成人の歩みを着実に進めさせて頂く所存でございます。

何卒一同の心勇んだ時句の足取りと尽くす真心をお受け取り下さいまして、教祖百四十年祭への確かな道の歩みをお導き下され、陽気ぐらしの世界実現に向けて、末代続く道の御守護を賜りますよう、一同と共に慎んで御願ひ申し上げます。



《7月月次祭神殿講話 学生層育成者講習会》

## 学生たちを信仰に繋ぐための 3つのポイント

本部学生担当委員会委員 東井申雄<sup>のぶお</sup>先生

### 親心をかける

学生層の育成とは、つまりは学生たちを信仰へと繋ぐ営みです。その上で、私が常々大切に考え心掛けている3つのポイントについて、ご相談申し上げます。

さて、皆様は『ハチ公物語』という映画はご存じでしょうか。私がまだ中学生だった頃、この映画を観る機会があったのですが、ほとんど心が動きませんでした。それ以降も可愛い動物や子供が困難な中を頑張るような映画を見ても、私はそれなりに感動することはあるものの、それほど強く心が動いた記憶がありません。

ところが先日、家族を乗せて車を運転しているときに、車の中で

『ダンボ』というアニメ作品を子供に見せていると、このときは、なぜか涙を流さんばかりに感動したのです。

なぜ今までこういった映画でほとんど感動しなかった自分が、『ダンボ』を見て感動したのか。それは、象の子供のダンボに、自然と我が子の姿を重ねて見ていたからでした。私は現在、3人の子供と与わっています。ダンボの笑った顔や丸々と太った大きな体が、うちの子供に似ている気がしたのです。ダンボを見て、自然と自分の子供の姿を重ねて見ている自分があることに気が付きました。

### 親心の芽生え

私の中で、子を授かったことを

きっかけに芽生えたもの。それは「親心」だと思ふのです。

月日にハセカイちゅうハみなわが子  
かハいい、ばいこれが一ちよ

十七号 16

月日にハセカイちゅうハみなわが子  
たすけたいとの心ばかりで

八号 4

ここには親から子に向けての思いとして、「かわいい」「たすけたい」という2つの要素が出てきます。つまり親心とは、「子供たちがかわいい。そのかわいい子供たちをたすけたい」という心でありましょう。

前真柱様は以前、学生担当者大会で、育てる立場の者が教祖の親心に近づく大切さをお話しくださいました。学生層の育成は、「育成者がどれだけ学生に対して親心をもつて接することができるか」にかかっていると思います。

私の場合、子を授かり、子育ての経験をする中で、我が子に限らず、広い対象を「かわいい、たすけたい」と感じる心が芽生えました。

### 相手と関わる時間を

教祖31歳の御年、まだ月日のやしろとなられる前のご逸話として、預かり子が黒痘瘡にかかり、我が子2人と御自身の命と引き換えに、預かり子のたすかりを願われたお話があります。私は正直なところ、「我が子の命に代えてまでも」という思いを人の子にけることが、どうしても想像できませんでした。そんな時、『正文遺韻』を読み、そのお心が少しだけ分かったような気がしたのです。

「いつも（お乳を）貰いに来る子供の中に、隣家の照乃亟という子がいましたが、この子は乳がすつかりござりませんで、貰い乳ばかりで育てておりますゆえ、教祖様はこれをまことにふびんとおぼしめして、御自身のお子供と同じように、可愛がつておやりなされるものですから、その子も、教祖様を親よりも一層したうようになって、だんだん離れるのをいやがるようになってきました。」



所が、先方においても、乳のなき事ゆえ、夜分などは大きに困っております。それゆえ、遂に教祖様の都合のよき時には、一晚位はとめて貰うというようなくあいから、いつとはなく一晚とめ、二晩とめして、ついに改めて頼んだでもなく、又引受けたでもないながらに、預り子のようになって、だんだん可愛さもましてきて、己が子三人のものとおなじように、お育てなされておりました。」

『正文遺韻』15頁  
※一部現代かな遣いに改めました

みき様と預かり子との間で情が育まれていった様子、子供と関わる時間を通して親心が高まっていた様子が描かれています。ここから悟るのは、我が子であるかどうかにかかわらず、目の前の相手と関わる時間を重ねることが、相手に対する親心を高める大きなきっかけになる、ということです。

学生担当委員会の活動方針の実践項目にも、「学生のために使う時間を増やそう」と掲げております。まずは学生たちと接する時間を少しでも増やす。繋がりのある学生に声をかけ、話を聴いてみる。LINEでちょっとしたメッセージを送ってみる。そんな心がけから学生と接する機会が増えることで、私たちの中学生たちに対する親心が動き出し、学生たちとの関係が少しずつ深まっていくのではないのでしょうか。

### 親に繋がる

私が子育ての中で気付いた大切なことが、もう一つあります。私の5歳の長女ですが、わがま

まで言うことを聞きません。周りの空気を読まず、落ち着きがなくウロウロ動き回って、今聞いたことを次の瞬間には忘れる。天邪鬼あまのじやぐな性格で、やれといったことはやらない。やめろと言ったことはわざとやってみせる。叱ったり、説いて聞かせたりするのですが、なかなか本人の様子は変わらない。それどころか、年々天邪鬼さが増しているような気がします。

そんな長女ですが、最近改めて思うことがあります。それは長女が自分にそっくりということですが、顔から、身体の大きさから私によく似ており、何よりも、空気を読まずにマイペース、人の言うことを聞かない天邪鬼なのは、私自身のことでもあります。

実は私自身も子供の頃は、本当に手の付けられない子供で、本部分界隈で数々の悪事をやらしたものです。大学院生のときも、交通違反を重ねて免許停止になったにもかかわらず、車に乗ってスピード違反で捕まり、交通機動隊の事務所に留置されました。そのとき

は親に「お宅の息子さんを留置して取り調べを行っている、家族の迎えがなければ今日は帰れない」という電話がかかり、親は相当に心配しただろうと思います。

また、私は長男ですが、6年前まで世間で勤めていました。このことは特に「長男はいつ帰ってくるのか。そもそもちゃんと帰ってくるのだろうか」と、親に相当の心配をかけたと思います。

親の思いをよそに、私はどれほど親に心配をかけてきたのか。そして、そんな自分を両親が見捨てずに抱えて通ってきてくれた。私自身とよく似て、大変手のかかる長女と過ごす中で、子育ての大変さを嫌というほど実感しているわけですが、私の両親も、手のかかる悪ガキだった私をずっと受け入れてくれた。その大きな親心に、ようやく気付いたのです。

恩に気付いたからには、次に私がやるべきことは、両親への恩返し、親孝行です。

今現在、お道は教祖百四十年祭に向けての三年千日の真っ只中で

すが、何か心を定めて実行させていただくには、最高の句です。私の心定めの一つは、親孝行をさせてもらう、ということでした。

そんな中、三年千日の始まりと時を同じくして、私の父が膝の痛みを訴えるようになりました。おつとめの際に立ったり座ったりするのも辛そうな状態です。私は、「親神様がくださった親孝行の絶好のチャンスだ」と思いました。

父に「おさづけをさせてもらいます」と声をかけ、取り次ぐ……といけばよかったです。ですが、実際はそうはいきませんでした。

これまで父は御用で家にいないことも多く、無口ですので、家族で会話することも少なく、私たち兄弟は母といろいろと話をすることが多かったのです。改めて父に対しておさづけを取り次ぐと思うと照れくさくて、素直に取り次ぐことができませんでした。

父への親孝行をさせてもらいたい。父の足の身上を御守護いたしたい。けれども、父におさづけを取り次ぐのは思いのほか難しい。

そこで思い出したのは、修養科の時の担任の先生のことでした。

その先生は北海道の方なのですが、なかなかおちばに帰ることができない信者さんのために、「ただ今から、おちばに帰れないAさんの代わりに廻廊拭きをさせていただきます。どうかAさんのお徳としてお受け取りください」と願って、本部神殿の廻廊拭きをされていたのです。

そこで、私は本部の廻廊の板を父の足だと思いうことにしました。

一拭き一拭き、父の足を撫でるつもりで廻廊拭きをさせていただくようになりました。また、草引きひのきしんの際にも、父の足の痛みの根っこを抜くつもりで、一本一本草を抜くようになりました。

もちろん、直接おさづけを取り次いだ方がいいのですが、どうしても素直にできない私がいまいました。

そこで、「ひのきしんを通していただく陰徳が、父のたすけになるように」との思いで、廻廊拭きと草引きひのきしんを、今も続けております。

## 子が信仰に繋がる

これまで私は、おつとめやひのきしんに子供を連れていくことはありましたが、具体的なお願いや、人のたすけをお願いするよう伝えたことはありませんでした。

しかし、父の身上に当たっては、「じいじがいつも足痛いつて言ってるやろ。だから、神様に足を良くしてくださいって、一緒にお願いしよう」と言葉をかけたのです。

すると長女と次女が「神様、じいじの足を良くしてください」と言葉にするようになりました。さらには、子供たちから「じいじのことをお願いしに行こう」と言って参拝に行きたがったり、廻廊拭きや草引きのひのきしんに行きたがるようになりました。今までにない自発的な声が子供たちから出てくるようになりました。

私の親孝行の実践は、「おさづけが素直にできないから、せめてひのきしん、お願いづとめを」という信仰者として情けないお話ですが、しかし、そんな不器用な親孝行の

実践でも、それをきっかけに我が子たちが親々のことを思い、神様にお祈りする姿、親に繋がり、信仰に繋がる姿をお見せいただいたと喜んでおります。

ところで、今お伝えしたことは、学生層にも当てはまることだと思います。育成というと、学生の方を向いて、学生に対して働きかける面を強く意識するものです。しかし、直接学生の方を向くわけではなくとも、親の方を向いて、親孝行を念じながら、一信仰者としてしっかりと日々の信仰生活を送ること。そうした信仰姿勢を言葉や行いで学生たちに示していくこともまた育成の大切な要素です。

何でも親という理戴くなら、いつも同じ晴天と論し置こう。

明治28年10月24日

日々親を立てながら、カラッと晴れた陽気な心で通る姿を、学生たちに映していきたいものです。

これが2つ目のポイント「育成者自身が親に繋がること」です。私自身も、いつか父におさづけを取り次ぐことを念じながら、不器



用なりに親に繋がる努力をしよう  
したいと思っています。

## Z世代

私たちが相手にするのは、学生の中でも特に「今どきの学生」になります。これまで特定の年代の集団を指して「団塊の世代」「バブル世代」「ゆとり世代」などの呼び名がありました。今の中学生から大学生くらいの年齢層のことを「Z世代」と呼びます。特徴としては、生まれた時点でインターネットが身近にあり、ありとあらゆる情報に囲まれ、スマホを日常的に使いこなし、インターネットを通じた人付き合いが日常の一部になっている世代です。

彼らはインターネットを通して、たくさんの情報に触れながら生きています。インターネットが普及する以前は、目で見て、耳で聞き、手で触れられる身近な世界がほぼ全てでした。その中では、生き方のモデルが身近な人に限られ、身近な大人は、自分の生き方、魅力的な姿を見せることができてい

ば、それをモデルとして学生たちは自然と育っていったのです。

しかし今の学生は、インターネットを通して、無数の価値観や生き方のモデルに触れながら生きています。その中で何を選択し、どう生きるのかを、自分自身で決めなければならぬ。そんなZ世代に共通する特徴が、「自分が納得したら動く」ということです。

## 元の理に見る親心のかけ方

私たち道の育成者の場合、当然、彼らがお道の信仰に納得し、信仰の道を選んでもらいたいと願っています。そのために、私たちはどうすればいいのでしょうか。

それを考えるための礎になるものが、私は「元の理」の中にあると思案いたします。

昭和53年に道友社から発刊された『ムック天理Ⅱ人間誕生』という書籍があり、その中に「元初のお話」という文章が出てきます。そこには、親神様がうをとみに対して、引き寄せた目的を丁寧な説明され、働いてくれるようお願い

される姿。そして、一度断られたものの、諦めずにお話をされ、その結果として、ついにうをとみにが承知して、もらい受けられるに至った姿が出てきます。

私は、元の理のこの場面に描写された動きが、私たちに求められている学生層の育成・丹精の在り方に重なると思うのです。まずは、相手が思い通りにならない前提で、相手の立場に立つて、相手が理解できるように、今からすることの目的を丁寧に説明する。学生たちが理解できるようにするまで、繰り返し話をする。

そこまで心を砕いて関わっても、学生たちはこちらの声掛けを無視したり、断ったりするかもしれません。ですが、元初りのお話の中で、後に神として拝をされることになるうをとみですら、神様の誘いを一度は断っているのです。それを思えば、こちらの意図をすぐに納得できず、断るのは、人々との関わりの中で当然出てくる姿と言えます。

ともすると、私たちは「ハイ」

と返事ができない学生のことを、「素直じゃない」「親の言うことを聞かない」と言って責めなくなったり、「言っても仕方がない」と諦めてしまふことがあるかもしれません。そんなときは、元の理に描かれた親の姿を思い出して、断る子供が悪いのではなく、自分の丹精が届いていないと心を治める。そして諦めずに、目の前の学生と向き合い、をやの思いを伝えていく。そんな丹精の結果として、学生が納得し、承知し、自らの意思でこの道を選び歩んでくれるようになるのだと思います。

これが3つ目のポイント、「目的を言葉で丁寧に説明する」ということです。生き方を背中で見せるだけではなく、目的、意味、魅力などを言葉にして繰り返し丁寧に説明する。これは、今の学生たちを相手にする上では、特に心に置いて大切にしたいことですし、学生たちを信仰へと繋ぐ上で、ダメ押し最後の一手になる、非常に大切なことと思います。





立教186年 こどもおちばがえり

## 真夏の親里にあふれる笑顔

コロナ禍により3年間中止となっていた「こどもおちばがえり」が、7月27日から8月6日までの期間で4年ぶりに開催された。おちばは連日気温が35度を超える猛暑日が続いたが、日本全国、また海外からも大勢帰参し、期間中、親里は子供たちの笑顔と喜びであふれた。

少年会芦津団（加世田洋団長）

は、少年会本部からの「一人でも多くの子供とおちばがえりの喜びを味わおう！」との打ち出しを受け、事前に全教会に帰参調査を行い、芦津団独自の取り組みを紹介する書面を要項と共に配布するなど、積極的に各教会に帰参を呼びかけた。

期間中は、毎朝ラジオ体操を行い、多くの少年会員が元気に参加した。

また18時15分からは、5階会議室で夕づとめ遙拝を行った後、芦津団独自の夜の行事がスタート。

5階会議室では、映画上映を行い、修養科棟修練場では「あしつ広場」を開催。射的やボールプー

ル、ストラックアウトなど、5種類のミニゲームで少年会員を楽しませた。

2階大広間では、「あしつお化け屋敷」を開催。参加した少年会員は、薄暗くひんやりとした会場内



あしつ広場



あしつお化け屋敷

を、不気味な人形、棺桶やスタッフが扮したお化けに怖がらせられながら、3つのチェックポイントでスタンプを押すミッションを行った。会場内からは、「ギャー」と子供たちの悲鳴が響き渡った。

1階事務所前では、学生会がカキ氷、ポップコーン、ジュースの販売を行い、大勢の子供たちで賑わいを見せた。

詰所では帰参団体の受け入れに少年会委員、在籍者、各教会からのひのきしん者が、食事の世話や各所の清掃など、帰参者が快適に過ごせるようひのきしんに勤めた。また、大教会長からのお土産と

して、帰参した少年会員にうちわを配布した。

加世田団長は、「久しぶりに子供たちの賑やかな声がおちば周辺、詰所で響き渡り、充実した期間を過ごせた。来年に向けて、少年会本部の動きに合わせ、独自の行事も検討していきたい」と語った。

芦津からは、96隊から少年会員584名（内、わかぎ64名、初参加者207名）育成会員455名、合わせて1千39名が帰参した。

なお、芦津鼓笛バンドは、8月2日の鼓笛オンパレードに出演し、38年連続の金賞を受賞した。



詰所玄関前の大看板

教務部報

おさづけの理拝戴《6月》

福島 美和(周 宝)

河合 乙音(直 轄)

《拝戴日順 2名》

初席《6月》

《5名》芦山都

《1名》東大屋、芦大熊

《順序運びより 7名》

訃 報

有田港分教会(代会長(東津部属)山本良子姉(やまもと りょうこ))



令和5年8月3日出直された。享年93歳。

告別式は8月6日、坂井豊

郎・東津分教会役員斎主のもと、有田市の葬祭場で執り行われた。

姉は昭和6年、当時の和歌山県有田郡箕島町で生まれ、

同23年おさづけの理拝戴、同年修養科第83期修了、24年教人登録、40年有田港分教会二代会長に就任。以来、現職教会長として6度にわたり年祭活動を勤められた。

その50余年の間、上級・哇川分教会への日参を欠かさず、日々の尽くしを運び続け、親一条、ぢば一条の信仰を貫き通された。

また、常に穏やかで親心に溢れ、教え子等を導かれたのはもとより、4人の子らと共に、2人の預かり子を養子に迎えて共に立派に育てるなど、たすけ一条の道を歩まれた。

月例統計(自令和5年1月1日)至令和5年6月30日)

| 項 目<br>名 称<br>( ) 内教会数 | 初<br>席 | の<br>お<br>理<br>さ<br>づ<br>け<br>戴 | 修<br>養<br>科<br>修<br>了 | 教<br>人 |
|------------------------|--------|---------------------------------|-----------------------|--------|
| 大 教 会 (1)              | 9      | 9                               | 2                     |        |
| 東 津 (13)               | 1      | 1                               | 1                     | 1      |
| 吉 野 (29)               | 2      | 1                               | 1                     |        |
| 島 原 (16)               | 4      | 2                               | 1                     | 2      |
| 日 方 (15)               | 3      |                                 |                       | 4      |
| 稗 島 (7)                | 3      |                                 |                       |        |
| 本 津 (2)                |        |                                 |                       |        |
| 日 高 (2)                |        |                                 |                       |        |
| 始 良 (5)                |        |                                 |                       |        |
| 津 和 (12)               | 1      |                                 |                       |        |
| 門 司 (6)                |        | 2                               |                       | 2      |
| 當 別 (6)                |        |                                 |                       |        |
| 大 島 (26)               | 14     |                                 | 1                     |        |
| 沖 縄 (3)                | 1      |                                 |                       |        |
| 尼 崎 (2)                |        |                                 |                       |        |
| 四 ツ 山 (5)              |        |                                 |                       |        |
| 大 冠 (2)                |        |                                 |                       |        |
| 島 下 (1)                | 1      |                                 |                       |        |
| 天 保 山 (3)              |        |                                 |                       |        |
| 青 木 (1)                |        |                                 |                       |        |
| 芦 浪 (1)                | 1      |                                 |                       |        |
| 甲 邊 (1)                |        | 1                               |                       |        |
| 芦 華 (1)                |        |                                 |                       |        |
| 天 津 (1)                |        |                                 |                       |        |
| 入 江 (1)                |        |                                 |                       |        |
| 豊 野 (1)                |        |                                 |                       |        |
| 紀 周 (3)                | 1      | 2                               |                       |        |
| 勝 明 (1)                |        |                                 |                       |        |
| 神 の 島 (1)              | 1      |                                 |                       |        |
| 兵庫眞洲 (1)               |        |                                 |                       |        |
| 芦 ノ 郷 (2)              |        |                                 |                       |        |
| 本 明 勇 (2)              | 2      |                                 |                       |        |
| 明 道 (1)                |        |                                 |                       |        |
| 芦 東 (1)                |        |                                 |                       |        |
| 和 鎮 (3)                | 1      | 1                               |                       |        |
| 神 滝 本 (1)              |        |                                 |                       |        |
| 芦 明 徳 (1)              |        | 1                               |                       |        |
| 眞明彰化 (2)               | 1      |                                 |                       | 1      |
| 本 氣 (2)                | 1      |                                 |                       |        |
| 芦 明 照 (1)              |        |                                 |                       |        |
| 眞 伯 (1)                |        |                                 |                       |        |
| 合 計 (209)              | 47     | 19                              | 7                     | 10     |

9月は「にをいがけ強調の月」



たすけの旬 成人の旬

さあ！にをいがけ

1人のようぼくが

3枚のリーフレットを持って

身近な方に

お道のにをいを届けよう

#あつまれ！芦津の学生

芦津学生会総会

10/29(日) 午前10時 芦津大教会

内容：おつとめ、式典、アトラクション

芦津学生会  
Instagram

